

本資料は、2020年3月12日に開催を予定しておりました「医療の質向上のためのコンソーシアム（Quality Improvement コンソーシアム）」でご覧いただく予定の内容をとりまとめたものです。多くの皆さま方に本事業についてご理解、ご支援いただけますよう、関係者一同、お願い申し上げます。

厚生労働省補助事業
医療の質向上のための体制整備事業

医療の質向上のためのコンソーシアム
(Quality Improvement コンソーシアム)

2020年3月12日

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療の質向上のための体制整備事務局

プログラム (2020年3月12日開催)

時間	内容	
13:30 ～ 13:40	開会挨拶／本会の趣旨説明	楠岡 英雄 (医療の質向上のための協議会運営委員会 委員長)
13:40 ～ 13:45	来賓挨拶	横倉 義武 (日本医師会 会長)
13:45 ～ 14:25	事業背景の説明	厚生労働省医政局
	事業概要の説明	日本医療機能評価機構
	作業部会の活動報告① (Q活用支援部会)	尾藤 誠司 (Q活用支援部会 部会長)
	作業部会の活動報告② (Q標準化部会)	的場 匡亮 (Q標準化部会 部会長)
14:25 ～ 14:30	休憩	
14:30 ～ 15:45	医療の質向上のためのコンソーシアム 開催記念シンポジウム	座長：河北 博文 (日本医療機能評価機構 理事長)
		亀田 俊忠 (日本医療機能評価機構 理事)
15:45 ～ 15:50	休憩	
15:50 ～ 16:00	閉会挨拶	亀田 俊忠 (日本医療機能評価機構 理事)

ご挨拶

医療の質向上のためのコンソーシアムは、今年度より開始されました厚生労働省補助事業である「医療の質向上のための体制整備事業」の一環として開催されるものです。

指標を用いて医療の質を可視化し向上を図ろうとする取組が、各医療団体のリーダーシップのもと約10年前に開始され、現在に至っております。その間、意欲的な約1,000の医療機関が取組に参加され、貴重な成果を収めておられます。一方で、医療の質とは何か、どのように測定し、どう継続的な改善に繋げていくのかなどについては、未だ全国的なコンセンサスが得られているとは言えません。

そこで、今年度、これまで実績を重ねてこられた医療関係団体、医療機関を中心に「医療の質向上のための協議会」を立ち上げ、厚生労働省の支援をいただきながら、医療の質の向上、情報の適切な開示・活用、そして患者中心の医療連携などを継続的に進めていくための体制を構築することといたしました。

事業開始後初めての開催となる今回のコンソーシアムは、本事業の概要、現在の取組について、全国の医療機関をはじめ多くの方にご理解いただき、ご参加をお願いしたいと企画いたしましたが、やむなく、中止せざるを得ませんでした。このため、当日ご発表いただく予定であった内容を取りまとめ、ここに掲載いたしました次第です。

今後、本事業において実施を予定する研修会、質改善プログラムに多くの方々にご参加いただき、事例や経験の共有などを通じて、共に医療の質向上を目指すコミュニティを形成したいと考えております。ご関心のある方々は是非お集まりいただきたいと存じます。

2020年3月12日

医療の質向上のための体制整備事業 運営委員会
(医療の質向上のための協議会)

委員長 楠岡 英雄

ご挨拶

医療の質の向上については、これまでも関係者の方々が自主的・主体的に様々なご努力を行ってきており、我が国において良質な医療が提供されてきたと承知しております。

厚生労働省としては、2010年度より医療の質の評価・公表等事業を開始し、医療の質を向上する活動の支援を実施してきました。2019年度より、医療の質向上のための体制整備事業が開始され、病院団体等によるこれまでの自主的・主体的な取り組みを生かしながら、オールジャパンで医療の質向上に取り組む体制が整えられたことについて、大変感謝したいと思います。

厚生労働省としても、医療の質向上にかかるご議論、状況を注視しながら必要な支援を行って参りたいと思いますので、今後ともご協力のほど、お願いいたします。

2020年3月12日

厚生労働省医政局総務課

「最善の医療を受けたい」という根源的な願いに応えようと、我々医療に関わるものは、これまで多くの努力を重ねてきた。そのひとつとして、各医療団体のリーダーシップのもと、指標を用いて医療の質を可視化し、向上を図ろうという取り組みが行われ、多くの意欲的な医療機関などで、貴重な成果が得られているところである。

しかし、医療の質とは何か、どのように測り、どう継続的な改善につなげるのかなどについては未だに全国的なコンセンサスが得られているとは言えない状況にある。

このたび、この分野で実績を重ねてきた団体、医療機関を基盤として全国版の協議会を立ち上げ、国の支援を受けながら、改めて、医療の質の向上、情報の適切な開示・活用、そして患者中心の医療連携、などを継続的に進めていくための体制を構築することとした。

決して容易な取り組みではなく、長期的な努力の積み重ねが必要となるが、すべての人々の幸福に貢献すべく、団体の枠を超えた未来志向の建設的な協業を進めていく決意である。

2019年9月25日

解説) 医療の質向上のための協議会 設置趣意書

- 医療の質向上のための協議会（以下、協議会）は、2010年度より開始した「医療の質の評価・公表等事業（2018年度終了）」に参加する病院団体を中心に構成された会議体です。
- 医療の質指標（以下、指標）を活用した質改善活動の成果及び課題等を全国規模で共有し、医療の質の向上、情報の適切な開示・活用、患者中心の医療連携などを継続的に進めていくための施策等について検討を行っています。
- 本設置趣意書は、協議会発足時（2019年9月25日）に構成員の総意として取りまとめたものです。

医療の質向上のための体制整備事業（厚労省補助事業）で実施する研修会や質改善プログラムへの参加等を通じて、医療の質向上に積極的に取り組み、事例や経験の共有などを目的とした、全国の医療施設や関係者による活動の場（コミュニティ）です。

解説）医療の質向上のためのコンソーシアム

- 医療の質向上のためのコンソーシアム（以下、QIコンソーシアム）は、本事業に参加する医療機関等から構成される活動の場（コミュニティ）です。
- 本事業が実施する研修会や質改善プログラムへの参加等を通じて、医療の質向上に積極的に取組、事例や経験の共有などを目的としています。
- 多くの皆さま方にご参加、ご活用いただけるよう、オン・オフサイト問わずの施策を検討していく予定です。

事業概要

背景

医療技術の高度化・複雑化に伴うガイドラインや根拠に基づく医療（EBM）の進展
医療の質に関する国民意識の変化に伴う質に関する情報の公表の高まり

医療の質の評価・公表等推進事業 (2010年度～2018年度)

- 9団体、約1000病院が参加
- 独自の臨床指標を作成し(計271指標)運用 など

- ・ 団体間で情報共有する機会が限定的であるため、蓄積されたノウハウの共有が十分でない。
- ・ 臨床指標の算出方法、臨床指標の評価分析方法、臨床指標の公表手法、人材養成手法、好事例の共有手法を含めたノウハウを共有し臨床指標の標準化を図ることが重要ではないか。

これまでの既存の取組を最大限に活かすことを前提とし、医療の質の評価・公表に積極的に取り組む病院団体等の協力を得ながら、「医療の質向上のための協議会」を立ち上げ、医療機関、病院団体等を支援する仕組みを構築する。

医療の質向上のための体制整備事業 (2019年度)

事業実施機関：公益財団法人日本医療機能評価機構

解説) 医療の質向上のための体制整備事業 創設の背景

- 本事業は、2010年度から18年度まで実施された「医療の質の評価・公表等推進事業（厚生労働省補助事業）」を前身とした事業です。
- 医療の質の評価・公表等推進事業^{*注}は、国民の関心の高い特定の医療分野について、病院が指標を設定し、その取組を分析・改善策の検討及び情報の公表を行うことで、医療の質の向上を推進させることを目的に運営された事業です。これまでに、9つの病院団体（約1,000病院）が参加されています。
- 本事業は、医療の質の評価・公表等推進事業で顕在化した課題について、取組に参加された病院団体を中心に全国の医療機関、病院団体等を支援する仕組みを構築する事業として2019年度より開始し、公募の結果、日本医療機能評価機構（以下、評価機構）が事業実施機関として運営しています。

事業目的

<事業目的>

- 現場の自主的な質改善活動を充実させる。
- 医療の質を可視化し信頼性を向上させる。

事業運営体制

医療の質の評価・公表等推進事業
参加病院団体及び参加病院など

臨床指標を活用した質改善活動に
意欲ある医療関連施設など

医療の質向上のためのコンソーシアム (qiコンソーシアム)

医療の質向上のための活動の“場”

医療の質向上のための協議会

(事業実施機関：公益財団法人日本医療機能評価機構)

各種施策の企画・検討、実施及び「医療の質向上のためのコンソーシアム」の運営

厚生労働省医政局

(「医療の質向上のための体制整備事業」事業管理者)

事業内容

取組の共有・普及

- ・ 好事例の収集・調査分析を行い、成功要因を基に改善モデルを作成（手引き、事例集など）
- ・ コンソーシアムへの参加を通じて、取組の共有・普及を図るなど強固なネットワークの構築

人材育成

- ・ 臨床指標を使いこなせる人材に必要な知識・スキルを整理し、コンピテンシーを設定
- ・ 上記に必要な養成カリキュラムの検討及び養成セミナーの試行開催

活動の“場”の提供

医療の質向上のためのコンソーシアムの発足・運営

臨床指標の標準化、公表

- ・ 各団体の取組を踏まえ、臨床指標の標準化に向けたあり方及び標準化指標の選定方法等を検討
- ・ 臨床指標の評価及び公表のあり方について検討

臨床指標の評価・分析

- ・ 臨床指標に関する各病院の取組を支援するための相談窓口の設置
- ・ 臨床指標の定義に関する最新情報の入手及び公開
- ・ 管理者層等を対象としたセミナーの開催

事業基盤の整備

- ・ 安定した事業運営（事業継続性）
- ・ 質改善意欲を高めるための仕組づくり
- ・ 魅力ある事業に向けた工夫（参加医療機関の拡大）

厚生労働省「医療の質向上のための体制整備事業実施要綱(医政発0401第6号平成31年4月1日)」をもとに事務局で作成。

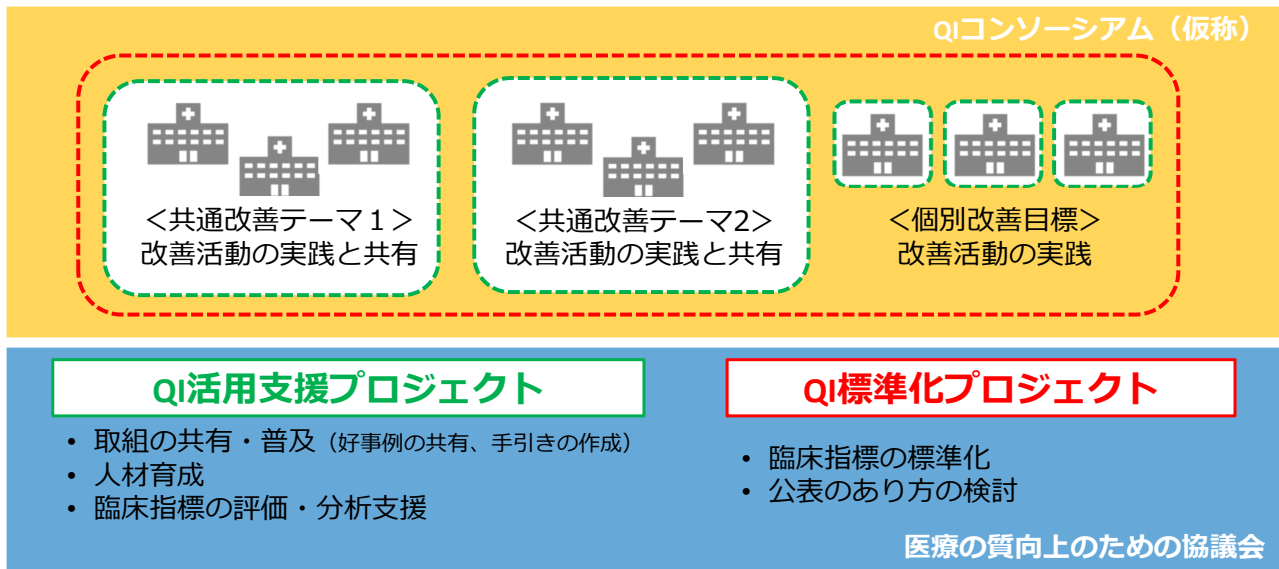
解説）事業目的, 事業運営体制, 事業内容

- 本事業の目的、運営体制、事業内容は、評価機構が事業実施機関として選定された際に厚生労働省より受領した「医療の質向上のための体制整備事業実施要綱（医政局発0401第6号平成31年4月1日）」をもとに設定しています。
- 本事業は、厚生労働省医政局からの支援をいただきながら協議会を運営し、協議会で検討された成果等はQIコンソーシアムに還元することとしています。
- 本事業は、指標を活用した質改善事例の共有・普及、人材育成、指標の標準化及び評価・公表のあり方の検討を主要な事業としています。また永続的に事業が運営できるよう、事業基盤の整備についても重要な課題として検討しています。

事業目的と実施プロジェクト

事業目的

- ① 現場の自主的な質改善活動を充実させる。→ “QI活用支援プロジェクト”
- ② 医療の質を可視化し信頼性を向上させる。→ “QI標準化プロジェクト”

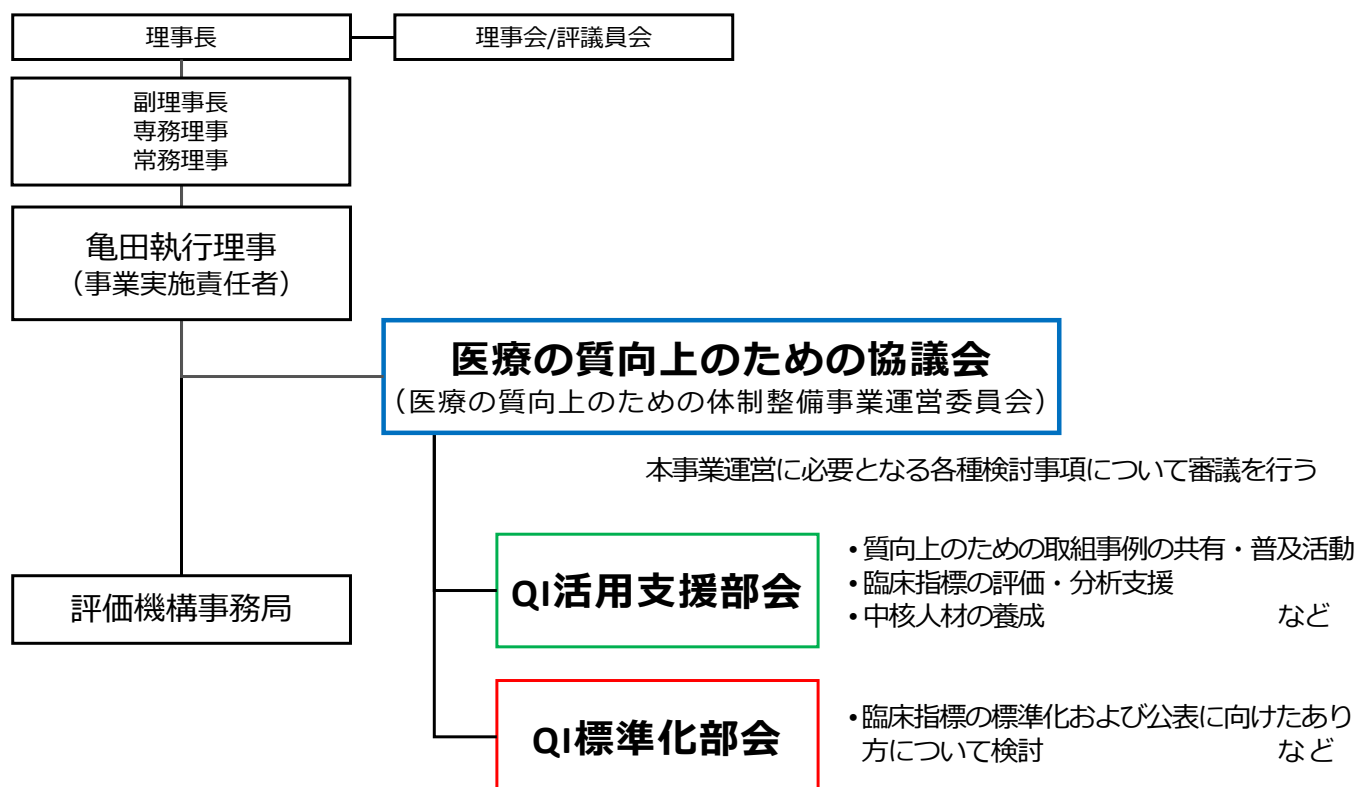


□ 活用支援プロジェクトにて対応 □ 標準化プロジェクトにて対応

解説）事業目的と実施プロジェクト

- 本事業は、事業目的を達成させるために、2つのプロジェクトを立ち上げ検討を進めています。1点目は、現場の自主的な質改善活動を充実させるための施策を検討する“QI活用支援プロジェクト”、2点目は、医療の質を可視化し信頼性を向上させるための施策を検討する“QI標準化プロジェクト”です。
- QI活用支援プロジェクトでは、指標を活用した質改善事例の共有・普及、人材育成等について検討し、主に医療機関の質改善活動をサポート可能とする施策の検討を行っています。
- QI標準化プロジェクトでは、指標の標準化及び評価・公表のあり方について検討し、主に各病院団体を中心に策定された指標の標準化に向けた検討及び測定された指標の公表のあり方について検討を行っています。

運営事務局体制（日本医療機能評価機構）



解説）運営事務局体制

- 本事業は、評価機構が厚生労働省の支援を受け実施する事業であり亀田執行理事がその責を務めています。
- 事業運営に必要な様々な検討事項を審議する会議体として前身の事業（医療の質の評価・公表等推進事業）に参加する病院団体を中心に構成する「医療の質向上のための協議会」を設置しています。なお、評価機構のルール（委員会等設置規則）により協議会は運営委員会を兼ねており、対外的には協議会、内部的には委員会と称しています。
- 協議会の下部組織として具体的な施策を検討する2つの作業部会を設置しています。QI活用支援プロジェクトの検討部会としてQI活用支援部会、QI標準化プロジェクトの検討部会としてQI標準化部会があります。



医療の質向上のための協議会 構成員 (医療の質向上のための体制整備事業運営委員会)

委員名 (敬称略)	所属	役職	備考
1 岡田 千春	独立行政法人国立病院機構	企画役	
2 城守 国斗	公益社団法人日本医師会	常任理事	
3 草場 鉄周	医療法人北海道家庭医療学センター	理事長	
4 楠岡 英雄	独立行政法人国立病院機構	理事長	委員長
5 桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社	代表取締役社長	
6 佐藤 朗	独立行政法人労働者健康安全機構	理事	
7 瀧村 佳代	独立行政法人地域医療機能推進機構	理事	
8 永井 庸次	公益社団法人 全日本病院協会	常任理事	委員長代理
9 原 義人	公益社団法人全国自治体病院協議会	副会長	
10 福井 次矢	一般社団法人日本病院会	常任理事	
11 松原 了	社会福祉法人恩賜財団済生会	理事	
12 松原 為人	全日本民主医療機関連合会	理事	
13 矢野 諭	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	
14 矢野 真	日本赤十字社 医療事業推進本部	統括副本部長	
15 吉川 久美子	公益社団法人 日本看護協会	常任理事	
16 堀田 聡子	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	アドバイザー
17 宮田 裕章	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	アドバイザー
18 渡辺 昇	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	アドバイザー

今年度の活動報告

23

解説) 今年度の活動報告

- 事業初年度である今年度は、協議会を設置し具体的な施策を検討する作業部会を組成しました。その後、事業の共通理解及び今後の作業方針等について議論をいたしました。
- 議論の結果、指標を活用した医療機関の質改善活動に役立つマニュアルの作成、コアとなる人材育成及び各病院団体が長年にわたり検討及び運用された指標等を成果物として取りまとめる方針としました。
- より実践的な成果物の作成を目指すことを主眼に、成果物は医療現場の方々に参加をいただきながら作成する方針です。具体的な成果物の作成は、次年度に年間を通して実施する予定です。

24

改善支援パッケージ

医療の質改善活動を実施するにあたり、“指標”を有効に活用できるよう実践マニュアル及び人材養成の開発を現在検討しています。

改善支援パッケージ

質改善実践マニュアル

医療の質指標を活用した質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル

医療
機関

質改善支援運用マニュアル

医療機関の質改善活動を支援するための対応マニュアル

協力団体
事務局

人材養成カリキュラム

医療の質指標を活用した改善活動を推進できる人材養成のカリキュラム・プログラムなど

医療
機関 協力団体
事務局

既存指標の整理

国内外で設定される医療の質指標を収集、整理し一覧化（オフィシャルサイトで公開）

医療
機関 協力団体
事務局

指標検討・策定がトライン

質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出するための考え方など

医療
機関 協力団体
事務局

対象

医療
機関 協力団体
事務局

解説）改善支援パッケージ

- 本事業では、指標を有効に活用した医療現場の質改善活動を支援できるよう様々なツール等の開発を検討しています。それらツール等を総称して“改善支援パッケージ”と呼んでいます。
- 改善支援パッケージでは、忙しい医療現場の方々が無理なく指標を活用し質改善活動が行えるよう、実践的なマニュアルの作成、人材養成、全国で利用される指標を収集・一覧化して公開するなどを検討しています。

改善支援パッケージの開発について

医療の質改善活動を実施するにあたり“指標”を有効に活用できるよう、医療現場の声を反映したマニュアル及び人材養成カリキュラムの開発を各協力団体様のご理解のもと、**団体に加盟する病院等の方々と共に検討を進める**予定です（パイロットの実施 *後述）。

2019年度

2020年度

- ・質改善実践マニュアル
- ・人材養成カリキュラム・プログラム
- ・質改善支援運用マニュアル
- ・指標検討・策定ガイドライン

テーマ設定
(糖尿病, 脳卒中, THA)

コンテンツ案
検討

コンテンツ
開発

改善支援
パッケージα版

現場の方々と共に検討を実施
(パイロットの実施)

テーマ設定における考え方

前提条件
(適用範囲)

- OECD Conceptual Frameworkを活用する。
- 病院団体を中心とした事業であるため、今年度は“**診断・治療（医療機関（病院））**”を**テーマの適用範囲**とする。

検討の
ベースライン

- 現在、福井班（共通QIセット）や各病院団体で多くの指標が提案、運用されており、それらを有効に活用できるテーマが望ましい。
- 今年度は**複数団体で取組実績がある共通QIセットを一定程度カバーできるようなテーマ**を設定する。

テーマの
検討

- 入院患者のケア（内科系）、入院患者のケア（外科系）、外来患者のケアを対象とすると多くの領域がカバーできる。
- **多職種チームの取組**として“脳卒中 and/or 急性心筋梗塞”、“人工股関節置換術（THA）”、“糖尿病”及び**組織横断的な取組**として“周術期の医療安全”などがあげられる。

2019年度の検討テーマ

糖尿病

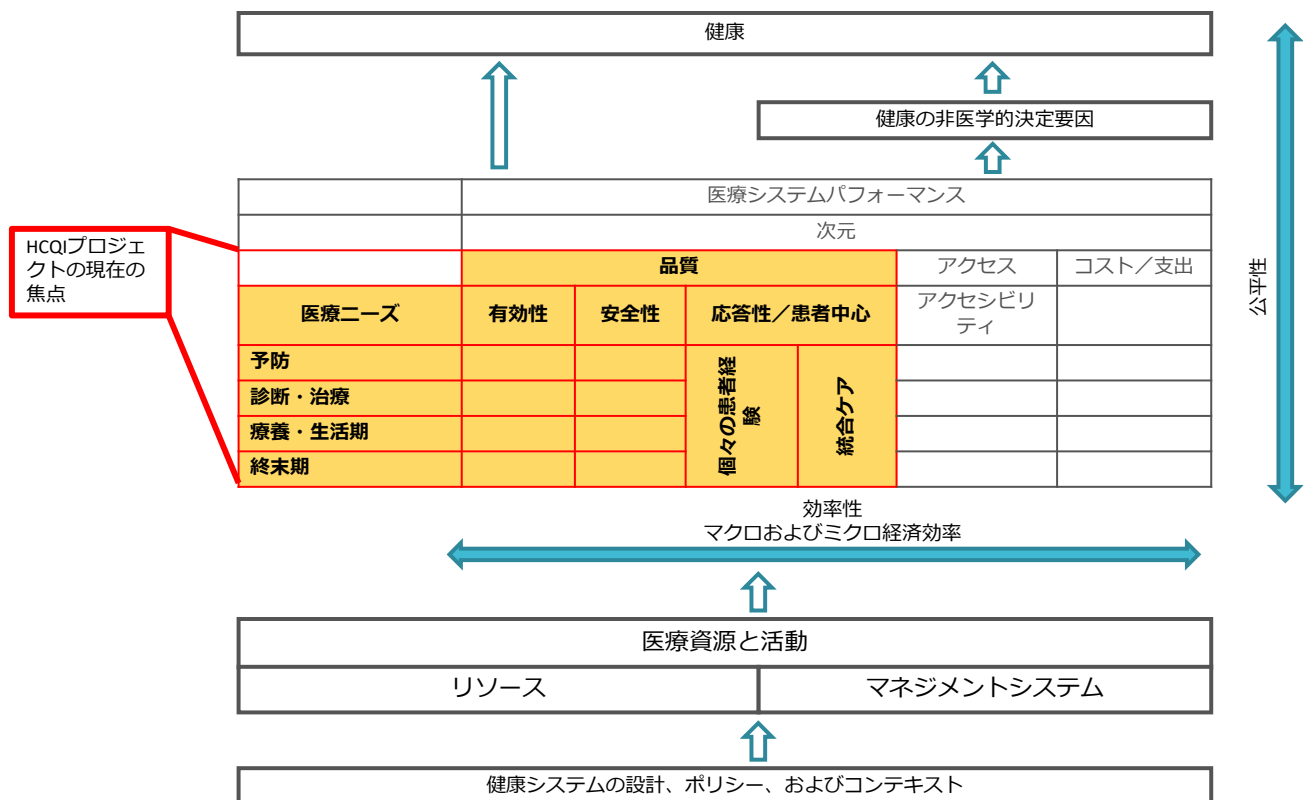
脳卒中

人工股関節置換術
(THA)

解説）改善支援パッケージの開発、テーマ設定における考え方

- 改善支援パッケージの開発は、本事業に参加する協力団体及び団体に加盟する病院等の方々と共に検討を進め、より現場で活用いただきやすいコンテンツ等の作成を目指しています。
- 具体的には、協力団体から開発に参加いただける病院を募り（以下、協力病院）、指標を活用した質改善活動を実施いただきながらコンテンツ等を作成する方針としています（パイロットの実施）。
- また開発は、小規模なグループを対象に進めることとし、今回は“糖尿病”、“脳卒中”、“人工股関節置換術（THA）”を検討テーマとして設定し、テーマに関わる医療関係者に協力をいただきながら開発を進めていく予定です。

参考: OECD Conceptual Framework



参考: 共通QIセット

平成28～30年度 厚生労働科学研究

研究代表者: 福井 次矢

『医療の質の評価・公表と医療情報提供の推進に関する研究』【参考資料】

共通QIセット: 23種類の36指標

平成28年度厚労科研補助金

医療の質指標に関する国内外レビュー及びより効果的な取組に関する研究(研究代表者 福井次矢)

- ①入院患者満足度 ②外来患者満足度 ③職員満足度 ④転倒・転落発生率
- ⑤インシデント・アクシデント発生率 ⑥褥瘡発生率
- ⑦中心静脈カテーテル挿入時の気胸発生率 ⑧カンサーボードの開催
- ⑨麻薬処方患者における痛みの程度の記載
- ⑩急性心筋梗塞患者におけるアスピリン投与
- ⑪Door-to-Balloon ⑫早期リハビリテーション
- ⑬誤嚥性肺炎患者に対する喉頭ファイバースコープあるいは嚥下造影検査の実施率
- ⑭血糖コントロール ⑮予防的抗菌薬の投与 ⑯服薬指導 ⑰栄養指導
- ⑱手術患者での肺血栓塞栓症予防・発生率 ⑲30日以内の予定外再入院率
- ⑳職員の予防接種率 ㉑高齢者における事前指示(ACP)
- ㉒広域抗菌薬使用時の血液培養 ㉓地域連携パスの使用率

第12回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会
資料抜粋(厚労省医政局)

QI活用支援部会での検討状況

33

QI活用支援部会 部会員一覧

	委員名（敬称略）	所属	役職	備考
1	荒井 康夫	学校法人北里研究所 北里大学病院 医療支援部 診療情報管理室	課長	
2	猪飼 宏	京都府中丹広域振興局 健康福祉部 中丹西保健所	所長	
3	岩渕 勝好	山形市立病院済生館 呼吸器内科	科長	
4	尾藤 誠司	国立病院機構 東京医療センター 臨床研修科	医長	部会長
5	宮地 正彦	掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター	企業長 兼院長	
6	渡辺 昇	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	アドバイザー
7	本橋 隆子	聖マリアンナ医科大学 予防医学教室	助教	参考人

QI活用支援部会では、質改善実践マニュアル、質改善支援運用マニュアル、人材養成カリキュラムの開発を主な作業として検討を進めています。

改善支援パッケージ

質改善実践マニュアル

医療の質指標を活用した質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル

医療機関

質改善支援運用マニュアル

医療機関の質改善活動を支援するための対応マニュアル

協力団体事務局

人材養成カリキュラム

医療の質指標を活用した改善活動を推進できる人材養成のカリキュラム・プログラムなど

医療機関 協力団体事務局

既存指標の整理

国内外で設定される医療の質指標を収集、整理し一覧化（オフィシャルサイトで公開）

医療機関 協力団体事務局

指標検討・策定ガイドライン

質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出するための考え方など

医療機関 協力団体事務局

対象

医療機関

協力団体事務局

質改善実践マニュアルの検討（骨子案）

Part1（準備フェーズ）

PDCAサイクルを回すために準備段階に必要なポイント等について解説する。

Part2（実践フェーズ）

PDCAサイクルを円滑に実行するために必要なポイント等について解説する。

定着化

① 総論 （役割・意義）

質改善測定指標の役割と改善の意義について解説

② 体制構築

当該テーマにおける対象者（チーム）の選定及び利害関係者への理解など活動する上での環境を構築するための手引き

③ 現状把握 課題整理

以下についての手引きなど
・質改善測定指標の設定・現状の測定及び課題の洗い出し
・対象者のディスカッション等による課題の洗い出し
・課題の一覧化及び対応課題の決定

④ 目標設定

改善目標を立案するための手引き

⑤ 計画

計画立案に向けた手引き
・質改善実行計画の策定
・検証計画の策定
（データ収集・集計方法等）

⑧ 改善

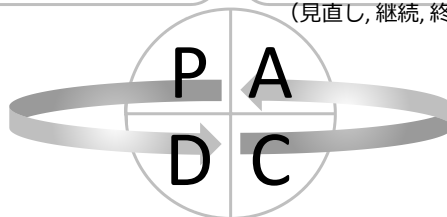
是正対応及びサイクルの実施判定などの手引き
・改善是正対応
・当該サイクルの実施判定
（見直し、継続、終了）

⑥ 実行

確実な実行に向けた手引き
・質改善活動の実行

⑦ 検証

成果検証に向けた手引き
・質改善活動の成果検証
・策定済み質改善実行計画の検証



管理者へ
報告

定常業務に
組込

パイロットの実施

次年度は、**改善支援パッケージの開発を各協力団体様からご推薦をいただいた病院と共に検討を進めていきます（パイロットの実施）**。
パイロットに参加いただく病院は、当事業が企画する各種施策をもとに自院において質改善活動を進めていただく予定です。



解説）QI活用支援部会

- QI活用支援部会では、改善支援パッケージのうち医療現場で活用いただくための指標を活用した“質改善実践マニュアル”、指標を活用した質改善活動を推進できる“人材養成カリキュラム”の開発を主な作業としています。
- 今年度は、各協力団体及び加盟する病院のこれまでの取組について調査し、本事業で検討すべきコンテンツについて検討を進めてきました。
- 次年度は、今年度の検討をもとに“糖尿病”、“脳卒中”、“人工股関節置換術（THA）”をテーマに関連する指標を活用したPDCAサイクルを協力病院に実施いただき、その過程をもとに質改善活動を成功に導くためのノウハウについてまとめていく予定です。

QI標準化部会での検討状況

39

QI標準化部会 部会員一覧

	委員名（敬称略）	所属	役職	備考
1	青木 拓也	京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野/地域医療システム学講座	特任助教	
2	鴨打 正浩	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座	教授	
3	國澤 進	京都大学大学院医学研究科 社会医学系専攻 医療経済学分野	准教授	
4	小林 康司	公益社団法人 日本看護協会 医療政策部 看護情報課		
5	林田 賢史	産業医科大学病院 医療情報部	部長	
6	的場 匡亮	昭和大学大学院 保健医療学研究科	講師	部会長
7	矢野 諭	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	
8	堀田 聰子	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	アドバイザー
9	宮田 裕章	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	アドバイザー

QI標準化部会（改善支援パッケージ）

QI標準化部会では、既存指標の整理、指標検討・策定ガイドラインの開発を主な作業として検討を進めています。

改善支援パッケージ

質改善実践マニュアル

医療の質指標を活用した質改善活動の考え方、進め方などを纏めたマニュアル

医療機関

質改善支援運用マニュアル

医療機関の質改善活動を支援するための対応マニュアル

協力団体事務局

人材養成カリキュラム

医療の質指標を活用した改善活動を推進できる人材養成のカリキュラム・プログラムなど

医療機関 協力団体事務局

既存指標の整理

国内外で設定される医療の質指標を収集、整理し一覧化（オフィシャルサイトで公開）

医療機関 協力団体事務局

指標検討・策定ガイドライン

質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出するための考え方など

医療機関 協力団体事務局

対象

医療機関 協力団体事務局

既存指標の整理

既存の指標（共通QIセット、各団体に定義する指標）及び国内外で利用されている指標を収集・整理・一覧化し、その後、テーマ（糖尿病、脳卒中、人工股関節置換術:THA）に関連する指標を抽出しメニュー（カタログ）を作成する。

調査・収集

共通QIセット
(23種36指標)

各団体が定義する指標

その他（国内外）

整理・検討

一覧化に向けて必要な情報の整理を行う（定型フォーマットを整備し、情報の落とし込みを行う）

指標に応じたカテゴリーを定義し、一覧化に向けて必要な情報を付与する（カテゴリー、タグ）

最終化

テーマに関連する指標の抽出・一覧化（メニュー（カタログ））

<定型フォーマットイメージ>

団体名	指標			
共通QI	pb1	pb2	...	pb36
A団体	a1	a2	...	aN
B団体	b1	b2	...	bN
C団体	c1	c2	...	cN
海外	ov1	ov2	...	ovN

団体名	年度	カテゴリー	指標名	説明	分子	分母	適用範囲	...
共通QI	2017	検査	pb1	xxxxx	xx	xxx	病院	
共通QI	2017	リハビリ	pb2	xxxxx	xxx	xxxxx	病院	
A団体	2019	投薬	a1	xxxxx	xxxxx	xxxx	病棟	
A団体	2018	その他	a2	xxxxx	xx	xxxx	病棟	
...	...	...	...	...	...	...	...	...

カテゴリー

タグ

参考: “カテゴリー”, “タグ”について

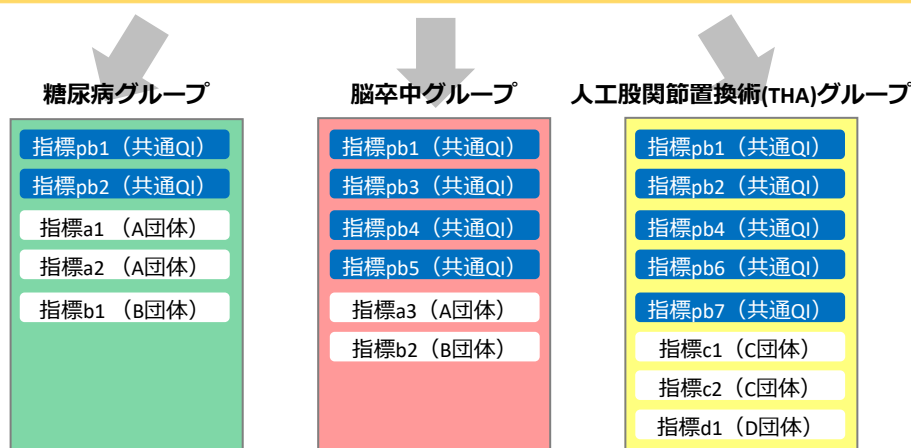
当座は医療機関（病院）を対象に検討を進めるため“カテゴリー”は病院医療に馴染む名称とし、医療の質評価の枠組み（Structure, Process, Outcome）を示す分類とする。“タグ”は一覧化した各指標の利便性（検索の容易性など）を高める分類とする。

カテゴリー	医療の質評価の枠組みを示す分類（SPO）	Structure	
		Process	外来, 検査, 入院, 投薬, 手術, 看護・ケア, リハビリテーション, 感染管理, 退院・●●●（検討中）, 緩和ケア, その他
		Outcome（6Ds）	Death（特に予期せぬ死亡や回避できた死亡）, Disease（症状・所見・検査異常の有無）, Disability（社会復帰までの病床期間）, Discomfort（痛み・嘔気・呼吸困難・痒み）, Dissatisfaction（医療への信頼性・満足感）, Debt（費用）
タグ	一覧化した各指標の利便性（検索の容易性など）を高めるための分類	適用範囲	病院, 病棟, 診療所, 訪問看護ST, 診療科など
		OECD CF	有効性, 安全性, 患者中心
		デバイス	DPC, サーベイランス（電子カルテなど）, レセプト, その他
		テーマ（疾患等）	糖尿病, 脳卒中, 人工股関節置換術（THA）, 医療安全, プライマリケア, ターミナルケア, 精神科医療, 救急医療, 災害時における医療, へき地の医療, 周産期医療, 小児医療など

テーマに応じた医療の質指標（最終化イメージ）

収集・整理された指標のうち、各テーマ（糖尿病, 脳卒中, 人工股関節置換術:THA）に関連する指標を抽出しグループ化を行う。

一覧化に向け収集・整理された指標プール （共通QIセット, 各団体が定義する指標, その他）



パイロットの実施
（2020年度～）

既存指標の整理

各協力団体のご理解、ご協力のもと全国規模で運用される医療の質指標を収集・整理し、閲覧・検索可能なデータベースを本事業のオフィシャルサイト上に構築しています（登録数：733指標 2020年3月2日現在）。

医療の質向上のための体制整備事業 オフィシャルサイト
<https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/>

検索結果

本システムのご利用にあたってはこちらをご参照ください。

733件中 20件表示

最新▲	団体名▲	年度▲	指標名称▲	データソース▲	SPO▲	更新日▲	閲覧数▲
	共通QI	2017	入院患者満足度「a.全体としてこの病院に満足していますか？」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	6
	共通QI	2017	入院患者満足度「b.入院の原因となった病気や症状に対する診断や治療方針について、医師から…」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	2
	共通QI	2017	入院患者満足度「c.入院の原因となった病気や症状に対する診断や治療方針について、医師の説…」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	4
	共通QI	2017	外来患者満足度「a.全体としてこの病院に満足していますか？」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	2
	共通QI	2017	外来患者満足度「b.診断や治療方針について、今日までに医師から受けた説明は十分でしたか？」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	2
	共通QI	2017	外来患者満足度「c.診断や治療方針について、医師の説明を受けた際の疑問や意見は、医師に伝…」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	2
	共通QI	2017	職員満足度「a.友人や家族が病気や怪我を患ったときに、あなたの施設を勧めたいと思います…」	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	3
	共通QI	2017	転倒・転落 a.入院患者での転倒転落発生率	サーベイランス	Outcome	2020/02/28	4

検索

フリーワードを入力

● AND検索 ● OR検索

病院団体名

- ☐ 厚労科研 共通QIセット
- ☐ 恩賜財団済生会
- ☐ 国立病院機構
- ☐ 全国自治体病院協議会
- ☐ 全日本病院協会
- ☐ 全日本民医連
- ☐ 地域医療機能推進機構
- ☐ 日本看護協会
- ☐ 日本赤十字社（準備中）
- ☐ 日本病院会
- ☐ 日本慢性期医療協会
- ☐ 労働者健康安全機構

解説）QI標準化部会

- QI標準化部会では、改善支援パッケージのうち国内外で運用される指標を収集・整理し一覧化を行う“既存指標の整理”、質改善をモニターするために必要な指標を既存指標から抽出するための考え方をまとめた“指標検討・策定ガイドライン”の作成を主な作業としています。
- 今年度は、各協力団体のご理解、ご協力のもと全国規模で運用される指標を収集し、各医療機関でより活用いただけるよう属性情報（カテゴリー、タグ）を付与し、閲覧・検索可能なデータベースを本事業のオフィシャルサイト上に構築しています（一部、運用開始）。
- 今後は、医療の質指標の標準化に向けたあり方、指標の評価及び公表のあり方についての検討を進める予定です。

医療の質向上のためのコンソーシアム

開催記念シンポジウム

47

本シンポジウムに関する資料については
別に掲載を予定しています。

「医療の質向上のための体制整備事業」は、これまで意欲的な医療機関などで培われてきた医療の質の可視化・改善などのノウハウを整理、体系化し、全国の医療機関でこれらを共有、深化させていくための体制基盤を創ることを目的に、2019年4月1日より日本医療機能評価機構が事業実施機関として運営を行っております。

本事業の最大の意義は、日本全国の医療関係団体が国の支援のもと、団体の枠を超えて協力しあい、医療の質の向上に取り組む体制基盤を創ることにあります。

医療の質の向上とは、人類にとっての根源的な課題であり、永続的な取組が求められます。今後も医療現場の自主的な質改善活動を主体として、試行錯誤を重ねながら取組が進められていくこととなりますが、それを励ますためには、国、各医療団体、国民の皆様の深いご理解、ご支援が必要となります。

本事業が、「人々の幸せに貢献する」という大きな目標のもと、国、全国の医療関係者、国民の皆様が協力し合う体制、あるいは機運づくりに繋がることを願っています。

今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2020年3月12日

公益財団法人日本医療機能評価機構
(医療の質向上のための体制整備事業 担当)

執行理事 亀田 俊忠